



水あそびが始まります!

今月より、水あそびが始まります。屋上やテラス、園庭など、安全、衛生面に気をつけながら、それぞれの場所で体調や気温に合わせておこなっていきます。

幼児クラスは、屋上の滑り台付きの大きなプールに入ります。乳児クラスは、2階テラスにプールを広げて、お水あそびを楽しみます。持ち物など詳しいことはミニコミや貼紙でお知らせします。

大自然の中でお泊り保育



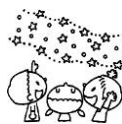
山県郡北広島町のログハウス“山の家”で年長組さんが、学生ボランティアのお兄さんお姉さんと一緒にお泊り保育を楽しみます。農園に行って、とうもろこしを収穫したり、グループでポイントラリーや、夕食で食べる野菜の皮むきなど、貴重な楽しい経験を沢山します。また夜にはキャンプファイヤーをした後、虫の声や葉っぱの揺れる音を聞きながら露天風呂に入ったり、花火をして遊びます。

保護者の皆さんから離れ、大自然の中いろいろな世代の人と過ごすことで、協力することの大切さや、自律心を育む機会となればと思っています。



7月7日は七夕です。人日(正月)、上巳(桃の節句)、端午、七夕、重陽(菊の節句)は、昔から五節句といわれ、それぞれにちなんだ伝説や行事があります。

七夕は星まつりで、天の川をはさんで東西に位置するアルタイ星とベガ星をけん牛(ひこ星)、織姫(織姫星)と呼んでいます。この二人は仲が良すぎて仕事をしなくなったため、天の神の怒りに触れ、別れ別れになってしまったのです。しかし、それから二人は懸命に働き、一年に一度7月7日カササギの橋の上で会うことが許されたと伝えられています。



平成 29 年 7 月の園だより



「乳児期のかかわりが大切」

先月号で、今後は経験や知識、事例に基づいて課題に取り組んだり答えを見つけたりするだけではなく、答えのない新しい課題に対しても粘り強く取り組み、それを解決していく力を養うことが大切であるというお話をしました。

学校教育で重要視されてきた記憶力や教えられた通りに正確に行う能力、IQなどで数値化される能力を認知能力と言います。一方で、自分が向き合っている問題に対し目標や意欲、興味、関心をもち、粘り強く、仲間と強調して取り組む力や姿勢を「非認知能力」と言います。「非認知能力」は乳幼児期に身につけておくべき「心の土台」であり、学童期になって身につくものではありません。

ノーベル賞受賞者のジェームズ・ヘックマンは、ある介入研究を通じて、幼児期に適切な保育を受ける中で、「非認知的な心の力」を獲得しておくことが、人が一生、健康で幸せに生きていくための素地となるという結論を導いています。また、OECDの「スターティング・ストロング」の調査報告等においても、保育の質の重要性や乳幼児期の教育が社会全体に与える効果があることが明らかとなり、今や、質の高い教育・保育が提供されることが、子どもたちの将来を豊かにし、ひいては国を豊かにすることが世界の常識になっています。つまり、乳幼児期の適切な教育・保育がいかに大切かということです。

東京大学大学院の遠藤利彦先生は、非認知的能力を「自己の力」と「社会性の力」と表現しています。自己にかかわる心の力は、自分を愛し自分の性質や能力に自信をもつ「自尊心」、自分の衝動や行動をコントロールする「自制心」、自分から何かに取り組みもうとする「自発性」、自分の力で行動しようとする「自律性」などを指し、一方、社会性にかかわる心の力は、「心の理解能力」、「共感性」、「思いやり」、あるいは「協調性」や「ルールを理解し守る力」などを指し、大切な働きをするものと述べています。

様々な研究知見の積み重ねの中で、「心の土台」となる「非認知能力」を育むには、乳幼児期のかかわりに鍵があることが広く認識されるようになってき

ました。こうした力を確実に獲得していくためには、乳幼児期の「アタッチメント(愛着=愛情の絆)」の安定性が大きな影響力を持つと考えられています。もちろん、子どもたち自らがやってみたいと思えるような環境構成も大切になりますが、その前提にあるのが「アタッチメント」だと考えています。

では、なぜ「アタッチメント」が大切なのでしょう。子どもは乳幼児期に主たる養育者(特定な大人)から無条件に受け入れられ、愛される経験を通して主たる養育者との「アタッチメント」を形成していきます。「アタッチメント」は人格形成の基盤となります。そして「心の土台」となるのです。安定した「アタッチメント」は「自己肯定感」を育み、不安を抑制し探索行動を活性化し、安心感を与えます。つまり、いかに「アタッチメント」を育ててきたかによりその子のその後の育ちは大きく変わり、「非認知能力」の獲得につながっていきます。

「アタッチメント」は、子どもの年齢や発達段階によって内容は変わってきますが、誕生のその瞬間から育まれる営みです。授乳の際に、赤ちゃんは養育者の顔をしっかりと見つめています。微笑み話しかければ「うーうー」と反応します。体をさすると足をピンと伸ばして気持ちよさそうにします。いずれも「心のキャッチボール」であり、安全基地があるからこそ、いろいろなことに挑戦していけます。

園では、信頼できる対象から安心できる気持ちを得ることが大切ということを理解し、子ども一人ひとりがあるがままに受け止め、その人格を尊重しながら丁寧にかかわっていくことがとても大切であると考えています。より深い信頼関係を構築するためにも、心地よい時間と空間を保障しながら、あそびを基本に保育・教育を進めてまいります。

なお、今月は年長さんが、7/28(金)~29(土)に、北広島町にある社会福祉法人順源会が所有する山の家(ログハウス村)に一泊保育に出かけます。「自尊心」や「自発性」、「自律性」、「共感性」など、「自己の力」、「社会性の力」が育まれるよい機会です。共に楽しいひとときを過ごしたいと思います。

子育て応援メッセージ

他人と比較してはいけ
ほんのわずかでも、できている部分を
見つけ、
それに気づかせることが重要だ



親は子どもに何か教える際に、周囲の子どもやきょうだいを例にとり、比較しがちです。それにより、見本を示すとともに間違いに気づかせ、懲らしめる効果を狙うのです。しかし、子どもは比較されることにより、自信を失い傷つきます。そして問題行動を増やす結果になるのです。もし正しい例を示したいのであれば、本人の中にある、ほんのわずかでもできている部分を見つけそれに気づかせることが大切です。いいとこみつけ・・・していきましょう。

ダイヤモンド社

「アルフレッド・アドラー

人生に革命が起きる100の言葉

小倉 広 解説

行事写真ネット閲覧について

展示内容：運動会

展示期間：2017年6月30日(金)~

2017年7月14日(金)

ユーザー名：mimiyousheep

パスワード：miho0628

